

小学校 道徳

事例 1

6 学年「ロレンゾの友達」(本当の友達)

本時のねらい: ロレンゾの3人の友達の対応を考えるを通して、友達に対してどのような思いが大切か考えを深め、友達と互いに信頼し良好な人間関係を築いていこうとする心情を育てる。

様々な立場の考えを知ることで、自らの考えを深める学習の充実

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・様々な立場を受け入れつつ、「友達と良好な人間関係を築いていくために自分は何を大切にしていきたいか」という問いへの自分自身の納得解を、他者との話し合いを通して求めようとしている姿

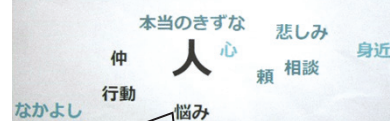


こんな姿を引き出すために…

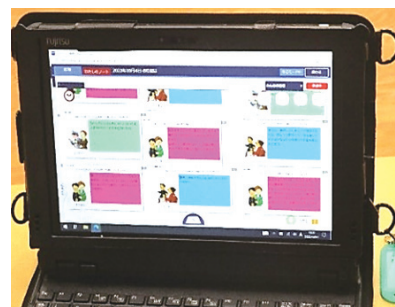
学習過程の工夫

- ① **問題意識**をもつ導入
 - ・事前アンケートにより、「友達」に対する考えを集計し、テキストマイニングで提示した。
- ② ICTを活用し、「**自分だったら**」の立場を明確化
 - ・「アンドレ」「ニコライ」「サバイユ」の行動の理由を考え、自分の立場を明確にした。
- ③自分とは違う考え方を「**知りたい**」、自分の考えを「**伝えたい**」をかなえる話し合い活動の工夫
 - ・1人1台端末での考えの共有だけでなく、直接的な対話(同じ立場、違う立場、学級全体)を通して、考えを深めていった。
- ④ **考えの深まりを自覚**することができる終末
 - ・再度「友達」について考え、授業前との考えと比較し、考えの深まりを自覚できるようにした。

あなたにとって、「友達」とは
どういう人のことをいいますか？



テキストマイニングで
考えを可視化



事例 2

3・4 学年「かっこいい背中」(すすんで働く)

3・4年生の複式学級での実践。「働くこと」について、4年生は、自分たちが日常的に実践している「朝玄関掃除」の**体験を振り返る**ことで、3年生はみんなのために働く4年生に**疑問を質問する**ことで「何のために働くのか」自分自身の納得解を得ていった。立場の違う者同士で対話をするすることで、**改めて自分の気持ちを自覚したり、新たな価値に気付いたり**していった。

学習過程の工夫



中学校 道徳

事例 1

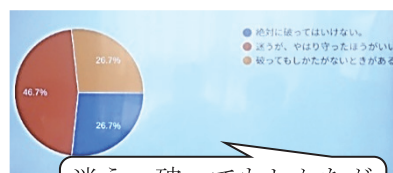
3 学年「二通の手紙」(社会の秩序と規律を守る)

本時のねらい: 元さんの思いを考えることを通して、法やきまりの意義に気付き、自らの義務を果たすことでよりよい社会をつくらうとする態度を育てる。

一人一人が自分事として問題意識をもち、考えていくために

○本実践で見られた自ら学びを調整しようとする姿

- ・自分の考える「規則やきまり」についての価値観と、教材の中で描かれる価値観の違いに気付き、「自分は規則やきまりを守ることをどのように捉えるか」問題意識をもって考えようとする姿



迷う、破ってもしかたがないが、約3/4。

こんな姿を引き出すために…

ICTの活用

1人1台端末を活用した意見交流与直接対話を効果的に使い分ける。

①「規則・きまり」に対する自分たちの考えの傾向を可視化

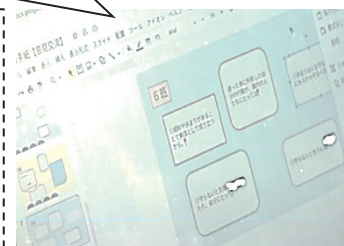
- ・事前アンケートの回答を円グラフで提示し、学級の傾向を可視化。「規則・きまり」に対して、「守ったほうがよい」と考える生徒が多いものの、そこには迷いや葛藤がある生徒が多いことが明確になった。

②教材の内容を整理し、価値観の違いを明確化

- ・スライドで教材を整理し、教材の中での「規則・きまり」に対する価値観を理解しやすくした。教材を理解することで、授業前の自分たちの価値観との違いに気付くこととなった。

③スライド機能を活用し、自分と他者の考えを比較

- ・「規則・きまり」に対する自分の考えを書き込み、共有した。生徒同士の直接対話の時間もとることで、他者の考えと比較し、自分の考えをさらに深めていくことになった。



事例 2

1 学年「初めての伴奏」

(集団生活を充実させていくために大切なことは何か)

ICTの活用

Forms のアンケート機能を使うことで、学習指導過程に応じて オンタイムで自分の立場を明確にした話し合い を行った実践。生徒は、アンケートに答えることにより、自分の立場を明確にすることができた。自分の立場を明確にすることで、違った立場の意見にも意識を向けることとなり、互いに意見を交流する中で「よりよい学校生活のために必要なことは何か」考えを深めていった。

